

Department	International College of Liberal Arts		
Semester	Spring 2023	Year Offered (Odd/Even/Every Year)	Every Year
Course Number	JPNL250		
Course Title	Professional Writing in Japanese		
Prerequisites	Japanese Native OR JPNL300 Advanced Japanese OR JPNL117 Japanese Language 7		
Course Instructor	稲垣 みどり	Year Available (Grade Level)	1
Subject Area	Japan Studies: Japanese Language	Number of Credits	3
Class Style	Seminar	Class Methods	Face to face

(NOTE 1) Class Methods are subject to change

(NOTE 2) Depending on the class size and the capacity of the facility, we may not be able to accommodate all students who wish to register for the course"

Course Description	<p>日本語での高度な書く能力を身につけることをこのコースの目的とする。論理的な文章の作成をはじめ、待遇表現や、様々な場面で社会人として通用する文章技法を学ぶ。定型表現を適切に使用する練習や、各種文書のテンプレートを利用して適切な情報を記入する練習、ビジネス場面における依頼・断り・謝罪など受講者が将来遭遇する可能性が高い場面でのメールや文書作成などを通して、文法的に正確な文章の作成はもとより、大学および社会での社会的文化的に適切な文書作成ができるようになることを目指す。</p> <p>これまでの履修学生からのフィードバックをもとに、クラスでは学生3～5人で構成する小グループでのディスカッションや相互評価(ピアレビュー)を行い、その結果を発表する活動を行う。これにより、学生がさまざまな文章・文体を分析する機会を得るとともに、そこでの気づき・学びを自らの文章作成に反映させることを目指す。</p> <p>また、書く活動に先立ち、新聞記事や様々な論説文、資料などを読んで対話(ディスカッション)する口頭表現の練習も本コースで行う。対話活動として、おもに①哲学的思考により物事の本質を考え、自らの思考を言語化し、共通理解を目指して対話を重ねる哲学対話「本質観取」の対話活動、②反対意見を踏まえつつ根拠を示して自分の主張を展開するためのディベートの二種類の対話活動を実践する。日本語母語話者学生および非日本語母語話者学生(超級～上級の日本語学習者)の共修科目である本科目で、日本語で説得的に意見を展開する口頭能力を数多くの対話活動によって実践することにより、批判的思考力の育成を目指す。クラス内での対話活動(ディスカッション)→書く活動(毎週の課題作文)→教師や学生同士のピアフィードバック、という流れで、日本語の高度なアカデミックライティングと口頭での論理的な日本語の表現力を身につけることが本科目の目的である。受講者は、受動的に講義を聴く形式でなく、たえず主体的に授業で発言し、議論し、自分の考えを毎週の作文課題として文章にまとめることが求められる。またコースの最後には、就職活動を想定した日本語での自己PR文の作成および口頭での模擬面接を行う。</p>
Class plan based on course evaluation from previous academic year	<p>毎学期のこのコースは、学生のコース評価とフィードバックを反映させたものとして評価される。先学期の学生のフィードバックによると、特に適切な待遇表現(敬語表現)を用いたメール文の作成、また批判的思考を駆使したディベートや哲学対話の対話活動が興味深くなったという声が多かったので、今学期もメール文作成と対話活動(ディスカッション)に多く時間を割いて、授業を進めていきたい。</p>
Course related to the instructor's practical experience (Summary of experience)	N/A
Learning Goals	<p>本科目の主な目標は、大学生として、また、社会人としてさまざまな環境で効果的にコミュニケーションを取る上で必要な文章技法を学生に身につけさせることである。</p> <p>全ての課題の要件を満たし、本科目を終了した学生は、次のことができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生・社会人として求められるレベルの論理的で明瞭な文章を作成することができる。 ・立場や親疎、内容を反映させた社会的文化的に適切な文書(電子メール、報告書、履歴書、及び履歴書等に添える自己PR文等)を作成することができる。 ・批判的思考を駆使して、説得的に自分の考えを適切に表明できる口頭能力を身につける。

iCLA Diploma Policy	DP1/DP2/DP3/DP4
---------------------	-----------------

iCLA Diploma Policy

(DP1) To Value Knowledge – Having high oral and written communication skills to be able to both comprehend and transfer knowledge

(DP2) To Be Able to Adapt to a Changing World – Having critical, creative, problem-solving, intercultural skills, global and independent mindset to adapt to a changing world

(DP3) To Believe in Collaboration – Having a disposition to work effectively and inclusively in teams

(DP4) To Act from a Sense of Personal and Social Responsibility – Having good ethical and moral values to make positive impacts in the world

Active Learning Methods	ディベート、ディスカッション、哲学対話、作文の相互ピアレビュー
Use of ICT in Class	ディベートやディスカッションの際に、各自PC等を授業に持ち込み、インターネット上のリソースを駆使して授業に参加する。
Use of ICT outside Class	インターネットによる情報検索やその他の各自のICTスキルを駆使して、課題作文を作成し、授業内のディベート、議論、哲学対話の実践に備える。
Expected study hours outside class	この科目を履修する学生は、予習・準備・復習・作文課題作成などのため、授業外に少なくとも週4時間の学習時間が必要となる。 (毎週、課題作文を書いて提出するため)
Feedback Methods	学生は毎週末に課題作文を教師にEメールで提出する。教師は、課題作文を添削し、フィードバックをメールで送信する。時に、クラス内で自分たちの書いた作文を読み合い、ピアフィードバックを行う（ピアフィードバックについては、個人情報に配慮して希望する学生のみ、あるいは匿名で行うなど配慮する）。

Grading Criteria		
Grading Methods	Grading Weights	Grading Content
議論への活発な参加	40%	ピアフィードバック活動や対話、ディスカッション活動への積極的な参加、また出席率
作文課題	50%	毎週の作文課題の提出率および評点
期末課題	10%	期末課題は総括的な作文課題である

Required Textbook(s)	各授業ではプリントを配布する。 参考図書はクラスで適宜紹介する。
Other Reading Materials/URL	後日授業で告知する
Plagiarism Policy	The instructor of this class takes the issue of academic honesty very seriously. All students' homework/ assessments should be his/her own work alone. No outside help whatsoever is permitted beyond those specified by the instructor. If a student is unsure whether something constitutes a breach or not, it is his/her responsibility to consult with the instructor before submitting the assessment. All breaches of the policy, regardless of the circumstances, will be addressed according to university policies. Please make sure to familiarize yourself with academic honesty policies in iCLA students' guidebook before the first assessment.
Other Additional Notes	評価基準は、2022年秋学期が対面授業であることを想定している。

(NOTE 3) Class schedule is subject to change

Class Schedule	
Class Number	Content
Class 1	オリエンテーション・日本語文章スタイルについて
Class 2	文章タイプ別の使用語彙について”
Class 3	表記・句読点
Class 4	待遇表現 1
Class 5	待遇表現 2
Class 6	待遇表現 3
Class 7	待遇表現と電子メール作成 1
Class 8	待遇表現と電子メール作成 2
Class 9	待遇表現と電子メール作成 3
Class 10	対話活動①—議論の種類を考える。「読むこと」と「書くこと」の連関
Class 11	対話活動②—ディベート
Class 12	対話活動③—本質観取（哲学対話）
Class 13	事実と意見の相違—引用の仕方
Class 14	曖昧な文、語順

Class 15	長い文を分ける
Class 16	文のねじれー主語述語の対応を考える
Class 17	接続表現（接続詞の適切な用法）
Class 18	アカデミックライティング（日本語）とはどんな文章か
Class 19	日本語アカデミックライティングの基本作法①
Class 20	日本語アカデミックライティングの基本作法②
Class 21	アカデミックライティング（反対の意見を述べる） ーディベート②
Class 22	アカデミックライティング（反対の意見を述べる） ーディベート③
Class 23	アカデミックライティング ー本質観取②
Class 24	アカデミックライティング ー本質観取③
Class 25	アカデミックライティング まとめ①
Class 26	アカデミックライティング まとめ②
Class 27	自己PR①
Class 28	自己PR②
Class 29	模擬面接①
Class 30	模擬面接②